

福島県高等学校等教育改革促進事業

F-N-E.X.T.～Fukushima,Future,Frontier～

資料 3

【教育庁教育総務課】

基本理念

地域・大学・企業・研究機関と連携し、探究的かつ地域課題解決につながる学びを通して、
福島県から、未来社会を切り拓くイノベーションを創出し、持続可能で豊かな地域社会を実現する

国の高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）の概要

背景・必要性

- ✓ 少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化
 - ・ 労働力需給ギャップの発生
 - AI・ロボット関係、理系人材の不足

- ✓ 予測が難しい未来の姿
 - ・ 多様な個性やニーズ・興味関心に応じた学びの実現
 - 生徒の可能性を広げ能力を伸ばす

■職種間の需給ミスマッチ（2040年）

専門的技術的職業	-181万人
うちAI・ロボット等の活用を担う人材	-339万人
事務	437万人
現場人材	-260万人
うち生産工程従事者	-206万人

■学歴別の需給ミスマッチ（2040年）

大卒・院卒 理系	需要：899万人 供給：775万人	-124万人
大学・院卒 文系	需要：1,549万人 供給：1,625万人	76万人
高卒（工業科）	需要：538万人 供給：448万人	-91万人

出典：「高校から大学・大学院を通じた人材育成システム改革ビジョン」
日本成長戦略会議人材育成分科会 令和8年4月

新しい学校のイメージ

専門高校の機能強化・高度化
(アドバンス・エッセンシャルワーカーの育成等)



普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
(文理の双方の素養を有する人材の育成等)



地理的アクセス・多様な学びの確保



福島県高等学校等教育改革促進事業

F-N-E.X.T.～Fukushima,Future,Frontier～

基本理念

地域・大学・企業・研究機関と連携し、探究的かつ地域課題解決につながる学びを通して、
福島県から、未来社会を切り拓くイノベーションを創出し、持続可能で豊かな地域社会を実現する

本県人材育成上の6つの課題



①人口減少・若者流出の進行

- ・・・ 高校生の減少や県外流出（特に女性）が進み、将来の担い手が不足。



②理工系人材の不足

- ・・・ 理工系大学への進学率が低く理工系人材が不足。地域間での偏りも存在。



③産業構造の変化に対応する人材不足

- ・・・ イノベ構想を踏まえた製造業の高度化や新産業の創出に対応できる人材が不足。



④探究活動から社会実装への発展の課題

- ・・・ 探究の成果が社会とつながりにくく、実装に至っていない。



⑤地理的・基盤的制約による学習機会格差の課題

- ・・・ 地域によって教育機会・学習環境に格差がある。



⑥人口減少社会に対応した学びの多様性確保の課題

- ・・・ 学科横断・小中高大一貫した人材育成や学校単位に依存しない持続可能な教育体制が必要。

○「福島県新産業人材育成方針（令和8年3月）」も踏まえ、事業計画（P.3）を策定した。

福島県高等学校等教育改革促進事業

F-N-E.X.T.～Fukushima,Future,Frontier～

基本理念

地域・大学・企業・研究機関と連携し、探究的かつ地域課題解決につながる学びを通して、
福島県から、未来社会を切り拓くイノベーションを創出し、持続可能で豊かな地域社会を実現する

事業計画

類型1 アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援 産業直結型の人材育成

拠点校：福島工業高等学校
協力校：二本松実業、会津工業、
小高産業技術

目指す姿

福島イノベ構想を踏まえ、地域産業の発展と高付加価値化を支える実践力を備えた産業直結型人材「フィジカルAIクリエイター」「エネルギーインテグレーター」を育成

主な取組

- ☑ 学科の枠を超えた共通科目「フィジカルAI・エネルギーシステム」の創設やデータサイエンス・AIに関する学習高度化などのカリキュラム改革
- ☑ 専門ラボ整備による新たな学習環境でのロボット・ドローン・AI・再エネ・水素の活用による実践的・探究的な学びを推進
- ☑ 企業・大学等と連携した課題解決学習や企業実習
- ☑ 「地域連携みらいテックスタジオ」による小中学生向けイベントによる裾野拡大、新たな設備を活用した教員研修、女性を含む多様な人材の参画

指標例 県内企業への就職率UP、女子生徒の入学数UP

類型2 理数系人材育成支援 価値創造型の人材育成

拠点校：福島高等学校
協力校：安積、会津、磐城

目指す姿

福島をフィールドに探究から社会実装までの一貫した学びを通して、社会課題を解決し、新たな価値を創造するイノベーション人材を育成

主な取組

- ☑ 研究と創造をつなぐ科目「STEAM探究・STEAM情報」を創設し、教科横断的なSTEAM教育の展開
- ☑ 大学・研究機関・企業等との研究者が継続的に助言する研究者伴走支援プログラムにより生徒の研究を支援
- ☑ STEAM教育の拠点施設「Future STEAM Lab」を整備し、実験・分析から創造、共有、発信までの体系的な学びを推進
- ☑ 高校生と研究者が日常的に交わる「サテライト研究室」を「Future STEAM Lab」に設置
- ☑ 「Future STEAM Lab」をハブに、最先端の指導ノウハウを全県へ波及し、福島への「人材還流」を促進
- ☑ 理数系（特に女性）人材の育成・進路支援

指標例 大学理学学部への進学希望者数UP
将来、福島で生活したい生徒数UP

類型3 多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保 機会保証型の全県展開

拠点校：郡山萌世高等学校
協力校：川俣、湖南、石川、猪苗代、
西会津、川口、只見、勿来

目指す姿

学習機会の格差を解消し、どこにいても、だれもが学び続けることができる包摂的な学習基盤を創出

主な取組

- ☑ VR空間「マナビバース」による居場所づくり・学習支援（AIチューター等）
- ☑ 地域サテライト拠点での居場所づくり・対面支援（交流・進路相談・学習支援）
- ☑ 遠隔授業・オンデマンド課外の活用（選択科目の充実・小規模校への同時配信）
- ☑ VR教材の活用による授業の質向上
- ☑ クロスミッション・学校間協働による探究活動や交流の推進
- ☑ 遠隔でも地域とつながる環境の整備

指標例 サテライト利用者数の拡大・遠隔授業による科目選択の充実
進路未決定者の減少

福島県高等学校等教育改革促進事業 F-N-E.X.T.～Fukushima,Future,Frontier～

基本理念

地域・大学・企業・研究機関と連携し、探究的かつ地域課題解決につながる学びを通して、
福島県から、未来社会を切り拓くイノベーションを創出し、持続可能で豊かな地域社会を実現する

都道府県における連携・協働体制の構築



教育庁

- ・高校教育課
- ・県立高校改革室
- ・教育総務課
- ・財務課
- ・施設財産室
- ・義務教育課
- ・特別支援教育課

- ✓高校改革
- ✓教育環境整備

企画調整部

- ・企画調整課
- ・復興・総合計画課
- ・福島イノベーション・コースト構想推進課
- ・統計課

- ✓部局横断の調整
- ✓復興計画やイノベーション計画との調整
- ✓高等教育機関との連携

商工労働部

- ・商工総務課
- ・雇用労政課
- ・企業立地課
- ・産業振興課
- ・次世代産業課
- ・医療関連産業集積室
- ・産業人材育成課

- ✓産業人材ニーズの見定め
- ✓産業界からのリソース提供の調整
- ✓産業ニーズへの還元

【主な連携機関】

福島大学 会津大学
 福島県立医科大学 日本大学工学部
 福島イノベーション・コースト構想推進機構
 福島国際研究教育機構（F-REI）
 福島県産業教育振興会

- 令和8年度中に、県において「高等学校教育改革実行計画」を策定
- 実行計画作成に当たっては、今後策定予定の「ふくしま地域産業成長プラン」も踏まえた検討も必要
- 文科省において今後創設予定の交付金を活用し、改革先導拠点校の取組を全県展開